

発達障害などある田湯加那子さん 9月1日から旧社台小校舎で作品展



力強さと大胆さで目を奪う色鉛筆画 心模様の変遷を託した約200点の「軌跡展」

白老在住の田湯加那子さん(40)。幼いころから対人関係などに困難があった田湯さんは、小学生の時に東京ディズニーランドを訪れた絵を教師にほめられたのをきっかけに、自分の心の中の喜怒哀楽をひたすら絵にぶつけるようになりました。何時間でも、一日中でも、何日でも机に向かい描きます。

母のひろみさん(65)は「精神的に不安定になり、食事も取れず、不眠で幻覚症状が現れるような苦しい、つらい時期にも『描く紙が欲しい、色鉛筆が欲しい』と、絵を描くことで娘なりにさまざまな感情のコントロールをしているんだと思いました」と、いとおしげに見守っています。

題材はJ-POPのアイドル、テレビや漫画の人気キャラクター、風景、抽象的な作品と身近。しかし、色鉛筆で何度も何度も強い筆圧で重ねた色使いと大胆な構図から生み出される世界観は、観る者を引き付ける魅力があります。

次第に人々の目にとまり、アール・ブリュット札幌展、紀伊國屋書店札幌本店、札幌芸術の森美術館などへの出品、個展へと広がり、国内外の注目を集めるようになりました。

今回は白老文化観光推進実行委が主催するルーツ&アーツ（白老文化芸術共創）で、「田湯加那子の軌跡」をテーマにした作品展を開催します。旧社台小学校校舎を会場に9月1日～10月9日（祝日除く月～水曜は定休）の10時～16時。入場無料。白老での展示会は2005年の「蔵」以来、18年ぶり。主催者は多くの来場を呼び掛けています。

困難の先に

視覚に障害ある高橋美雪さん 全国吟道大会へ 「好きな詩吟で一生懸命頑張りたい」

「うれしくて、うれしくて。ほっとしたのを覚えています」と感激を振り返る高橋美雪さん(31)＝北吉原。札幌市で行われた北海道地区吟詠大会和歌の部で入賞を果たし、9月18日に埼玉県で開催される「第29回全国優秀吟者吟道大会」に出場します。先天的に全盲という困難がありながらの大舞台。「代表が決まった時は胸が熱くなりました」と母の智子さん(58)。家族や指導者、職場など支えてくれる周囲からは、静かながら温かい声援が送られています。

音の世界に生きる美雪さんは、小さなころから民謡や特に三味線に心惹かれ大好き。20歳を過ぎたころには北海道道南岳風会白老支部の河上都都子さん（支部長）の詩吟を聞いて興味を持ち始め、同支部に入門。河上さんらのけいこを受けるようになりました。

就労支援・生活介護を行う多機能型事業所に通いながら、毎日時間が許す限り発声練習や、ボイスレコーダーで繰り返し聴いて覚える練習を熱心に続けています。同支部の松岡勝昭さんは「記憶力と音感がいい」とたたえます。美雪さんは「詩吟を習い始めたときは息を切らずに吟じたり、強弱をつける歌い方に慣れるまでが難しかったけど、今は、漢詩の力強さや和歌の緩やかな感じが楽しい」と詩吟の魅力を語っています。

披露するのは平安中期の歌人曾禰(そねの)好忠の和歌。「本番まで残り少ないけど、努力を惜しまず、一生懸命頑張りたい」と張り切っています。

